

水稲作におけるリン酸肥料削減の基本指針

水 稲

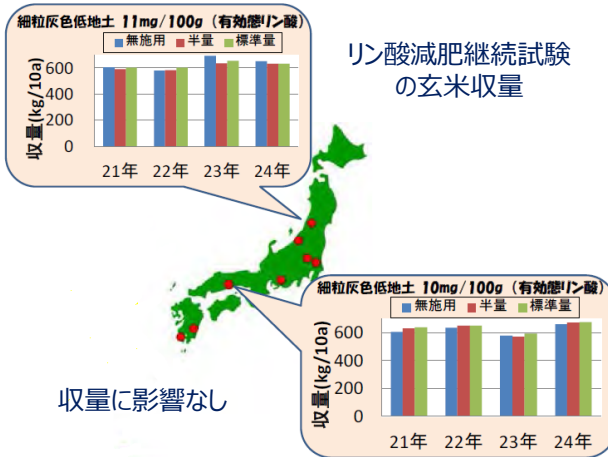
- 土壌分析による適正施肥等を通じてリン酸肥料を削減することで肥料コスト低減効果が期待できる。

実証例：稲わらが還元されており、有効態リン酸（作物が吸収できるリン酸）が10～15mg/100gの土壌では、リン酸施肥量を各地の土壌条件に応じて、標準施肥量からその半量の中の施肥量とし、15mg/100gより多く含まれる場合には、標準施肥量の半量で可（収量に影響なし）。

技術の概要

水稲作におけるリン酸肥料削減の基本指針

- ◆ 稲わらが還元されており、有効態リン酸が10～15mg/100gの土壌では、リン酸施肥量を各地の土壌条件に応じて、標準施肥量からその半量の中の施肥量にできる。



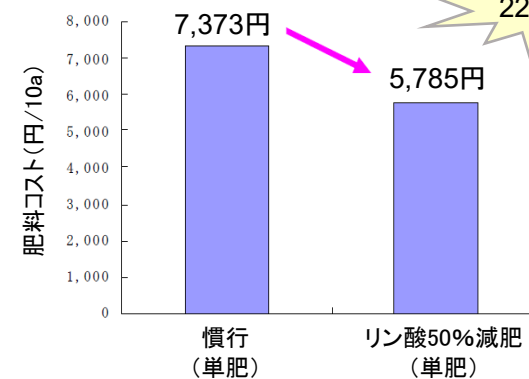
- ◆ 稲わらが還元されており、有効態リン酸が15mg/100gより多く含まれる土壌では、リン酸施肥量を標準施肥量の半量にできる。

土壌の有効態リン酸含有量 (乾燥土100g当たり)	10～15mg	15mgより多
新しいリン酸施用推奨量	標準施肥量～ 標準施肥量の半量	標準施肥量の半量

導入メリット（実証例）

- ◆ リン酸施肥量を半量にすると、肥料コストは10～20%削減

【寒冷地灰色低地土水田の場合】



- * 単肥（硫酸、過リン酸石灰、塩化カリ）で比較しているが、化成肥料の価格と比べると、16%の削減となる。

【グライ土水田の場合】

- * リン酸施肥量を半量にすると、10a当たりの肥料コストは4,827円から3,900円に約2割削減（化成肥料での比較）

※ 資料：農研機構「土壌診断、施肥法改善、土壌養分利用によるリン酸等の施肥量削減にむけた技術導入の手引き（平成26年3月）」

リン酸肥料削減の基本指針を踏まえた水田におけるリン酸減肥可能性

水 稲

農研機構のデータを実際の水田で測定されたデータに当てはめた場合、稲わらが還元されていけば、

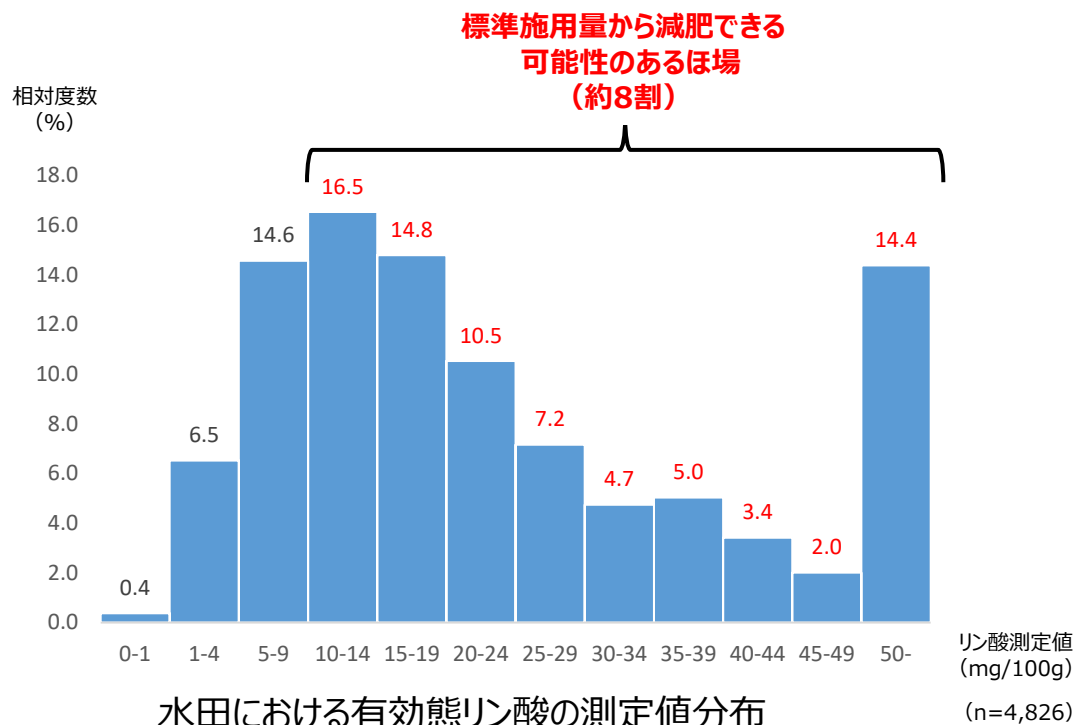
- 標準施用量の半分のリン酸施肥でよいほ場 **全体の約6割** (有効態リン酸濃度が15mg/100g以上)
 - 標準施用量から半分の間のリン酸施肥でよいほ場 **全体の約1.7割** (有効態リン酸濃度が10~15mg/100g)
- であることが判明。

➡全体の**約8割**のほ場では、**リン酸肥料の施肥量削減が行える**可能性が示唆された。

調査の概要

- ・2009年から2018年に全国31府県、4,826地点※の水田における有効態リン酸の測定値をとりまとめたもの。
- ※同一地点で複数年度の測定値が含まれている

調査の結果



データ：土づくりコンソーシアムフェイズ1における参画県からの提供データより